

令和元年度第1回 佐世保市地方創生推進協議会 (議事要旨)

日時：2019/12/23 14:00~15:30

場所：佐世保市役所 5階 庁議室

1. 開会

【事務局】

- ・事務局あいさつ

2. 市長挨拶

【市長】

- ・市長挨拶

3. 議題

1. まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返りについて

【事務局】

○総合戦略の振り返りとして総合戦略の基本目標、KPIの達成状況を資料に基づき説明。

○総合戦略の民間の取り組みについて説明。

【池田委員】

- 佐世保の活性化策を行うポイントは、『佐世保に米軍と海上自衛隊の基地があること。』だと考える。今後、防衛関連企業を育てていくことで佐世保の経済がより良いものになるはずである。
- 観光分野においても、『基地のまち』としてアピールしてよいと思う。その上で、遊休地を活用して観光客が地元物産を購入できるような観光施設充実させるなどを行うべきではないか。産学官金が力を合わせて、具体的に行動に移すようお願い申し上げます。

【プロジェクトチーム】

- 昨年3月に、佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港130年記念事業の一環で、全国初の地元団体と『艦これ(艦隊これくしょん)』との公式イベントを開催しました。開催期間は9月13日から16日の4日間で、2ヶ月間『艦これ』のラッピング高速バス(福岡-佐世保)が走行するなど、様々なイベントを実施しました。一次波及効果として14億円の経済効果があったと試算しています。
- このプロジェクトチームはイベントを行うことが目的ではありません。佐世保にお越しいただいて、佐世保のファンになっていただくこと、佐世保の特性を生かすことで多くの観光客が来ること。そして、最終的には一時的な観光客誘致ではなく定住人口増加にもつなげていきたいと考えています。

【プロジェクトチーム】

- 佐世保未来創造フォーラムで検討された『肥前やきもの圏』の事業採択を受け、産学官連携でPRイベントとモニターツアーを実施しました。イベントは、新港岸壁にテントを張って2日間開催しました。1日目の夕方に夜市をイメージした仕掛けを、翌2日目にはクルーズ客にも立ち寄って『やきもの』と『食』を楽しんでもらえました。この事業を通じて佐世保市、また広域都市圏のPRを図ることができ、関係人口の増加につながったのではないかと考えています。

【中島委員】

- 大学の目的は、人材の育成ですから、『地域にどういった人材を残していくか。』ということを主眼に、様々取り組んでいます。長崎国際大学の一部の取り組みとして、学生と地元企業のニーズのマッチング事業や、市民に対する公開講座等を行っております。長崎県は人口流出ワースト県であり、この現状が進んでいくと、散々たる状況になっていくと考えられます。もし人口が増えないというのであれば、地方の衰退がどうしたら止まるかを別の方向から検討していかなければ

ばいけない。皆さん方が大学に対して『こういったことをぜひやって欲しい。』というような提案いただければ佐世保市と一緒に頑張っていきたいと思っています。

【東田委員】

- 今年10月から、佐世保高専に『EDGE キャリアセンター』という組織を設けた。その目的は、①問題解決能力及び人間力をつける。②国際化を進める。③地元意識を高揚すること。EDGE キャリアセンターだけでなく佐世保高専として国際化に向けた教育と同時に、地域を強く意識した教育というものを展開したいと思っております。

【企画部長】

- 様々なお話をいただきました。これまで5年間、様々な形で地方創生に取り組んできましたが、市として更なる官民連携が必要であると思っております。是非、その点も踏まえて、この後のご議論に進んでいただければと思っております。

【大庭委員】

- 私も4月に福岡銀行から佐世保に来て、9ヶ月が経ちました。これほど経済会の方、銀行の方、それから学校の方、行政の方が、近い地域はあまり見たことがありません。皆さんが非常に熱心にやってらっしゃる。これは正直言ってびっくりしています。今後とも皆様方とも連携していきたいと思っております。よろしくお祈りします。

2. これからの地方創生について

【事務局】

- 総合計画と総合戦略の関係性及び地方創生推進協議会のこれからのことについて資料に基づき説明。

【久保田委員】

- 民生委員として活動していますが、先ほどご説明があった町内会の加入率が82.40%で、92.58%の達成率ということでしたが、実態は、町内の方になかなか入っていただけない状況があります。地域の方へのお知らせなど非常に困っている状況がございますので、何か町内会に加入してもらえようような施策や取り組みがあれば教えていただきたい。

【コミュニティ協働推進課】

- 今のところまだ具体的なものはありませんが、ワーキンググループやブロック会議、全体会議という流れで、町内会そして地区自治協議会との協議を進めさせていただき、その中で様々な案を提案して参りたいと思います。

3. その他 意見交換

【岡村委員】

- 先般、19日に政府の地方創生の第二期の計画案が発表されたわけですが、その中で、先ほど説明があった資料3にも記載の『東京一極集中を大幅に見直す。』とありますが、地方における地方創生にどのように影響すると見えていますか。

【中島部長】

- 前回の第一期では、例えば中央省庁を地方に移すとか、東京23区の中で大学の新設を認めない、増設を認めないであるとか、企業の地方移転などを明確に打ち出しがありました。他方、第二期では、強力に人口移動を誘導するという政策ではなく、新たに『関係人口』という考えが示されました。いわゆる交流人口は観光という一つの政策として考えておりましたが、それに『関係人口』という概念が新しく加わったものですが、これによって地方都市にどのようなメリットが享受されるのかは、正直言ってまだ分析ができておりませんので、今後の検討研究課題であると考えております。

【木村委員】

- 人口減少ということに関して、将来的に移民を考えているかどうか、が視点として入っていないと思います。人口を増やしたいのであれば、当然のことながら、移民という視点が入ってくるはずですが、佐世保市としては、移民を考えないで、純粋に増やしていくのかどうか、というようなことも検討されていると思いますが、どこの県でも、移民政策がなく人口は増えていかないというのが現状だと思う。そのような時代の総合計画がどうなっていくのかについて、なかなか読めな

ったので、言わないつもりでしたが、そのような視点も、これからは、かなり必要になってくるのではないかと思います。

- また、この推進協議会を審議会方式に変えるということは私も大賛成です。現状のままでは、やはり深く議論ができません。深く議論したものを持ち寄って、問題点をつまびらかにしていただきたいと思っていますところ。

【企画部長】

- 第7次総合計画は、概ね8年を標榜しながら、前期4年、後期4年の実施計画とします。前期4年というのは、現在の社会情勢の中でこの4年間何をやっていくのか。8年先を展望しながらとはいうものの、今の状況として、先ほどおっしゃった移民政策は、もしかしたらもう少し先の議論かもしれないと思っています。
- 具体的に標榜するのは、前期4年が終わったぐらいからではないか。国の政策がもう少し具体的になって、移民の考え方が明確に出た段階で、我々としても議論をしないとイケないと思っています。
- また、それは地域のコミュニティと非常に密接に関わることでもございますので、議論が深まってない現状の中で、早々にこの計画に盛り込むというのは、我々として時期尚早の感があります。外国人労働者に対する考え方は載せていますが、移民問題までは機が熟していないと判断しました。

【木村委員】

- 大きくなり過ぎていると思うが、やはり、研修生の制度ですとか、あるいは留学生がこちらで定住したいとか、そういったことを含めて、『日本人でない人をどう受け入れていくのか。』ということは、もう少し検討してもいいのかなと思います。総合計画に入れる必要はないかもしれませんが、そういう考えをもっているところ。

【企画部長】

- そのような『考え方』という意味では、第7次総合計画の各政策、施策に視点として包含されています。
- 佐世保市では国際政策課があり、基本的にはその中で、外国人に対して、コミュニティの中でどのように対応していくのかという視点を持っており、第7次総合計画の中でも視点として少しずつだが入っています。

4. 閉会

【市長】

閉会宣言

【事務局】事務局挨拶